

ちば経済フラッシュ

「ちば経済フラッシュ」は3、6、9、12月号に掲載します

千葉県経済の動き

概況

最近の県内経済は、個人消費が食料品やガソリン価格の高騰などで低迷が続く一方、製造業の輸出は中国向けを中心に高水準で推移している。しかし、先行きについては米国金融危機の影響などから、輸出の急速な落ち込みを懸念する声が強まっている。

千葉経済センターの「千葉県企業経営動向調査」（08年10月実施）によると、7～9月期の業況判断B S Iは▲十一・五（前回比▲四・二悪化）と7四半期連続で「悪化」超となり、「業況」を調査項目に加えた02年7～9月期以来もっとも低い数値となった。なお、これまでは03年4～6月期の▲九・九が最低だった。

県内小売業の販売動向は、生活必需品が相次いで値上げされる中、株安や年金問題等、先行き不透明感も強く、生活必需品以外の購入を手控える動きが強まっている。ホテル・レジャー施設でも、ガソリン高による宿泊者・入園者数の落ち込みや、おみやげ物を節約する動きなどから、売り上げは前年を下回った。もともと、周年イベントが好調だった舞浜地区のレジャー施設や同地区のホテル、低価格商品が主力のホームセンターなどでは、前年を上回って推移した。

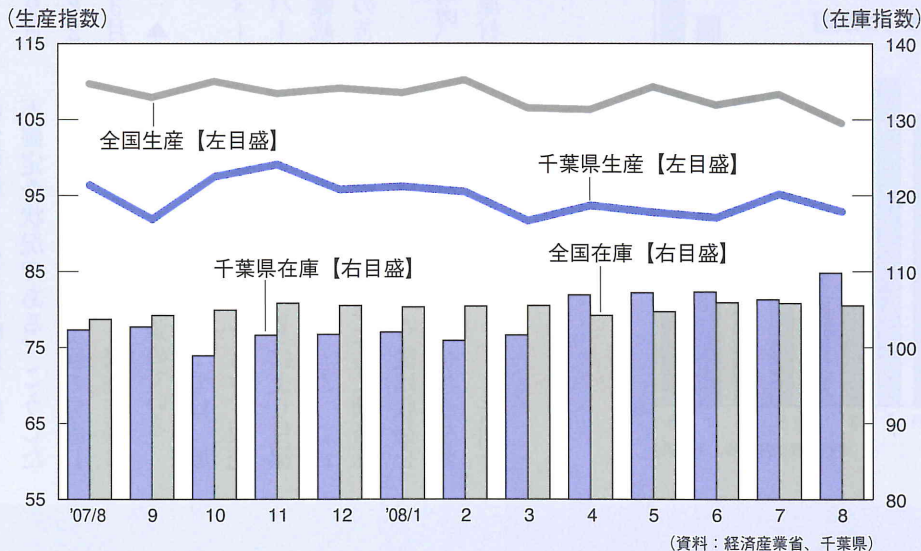
県内新設住宅着工戸数（6～8月期）は、07年の着工戸数が改正建築基準法施行（07年6月20日）により激減した反動で、前年同期比+三〇・二%と大幅に増加した。しかし、06年同期比では▲三・七%の減少となっている。

08年度設備投資計画額（08年10月調査）は07年度実績を▲十七・七%下回った。内訳は、製造業が同▲七・八%減少、非製造業が同▲二三・九%と大幅に減少した。

千葉県の有効求人倍率（季調値）は、07年6月の一・〇一倍をピークに低下している。最近では企業業績の悪化に伴い求人数が減少し、同倍率も5月・〇・八七倍↓6月・〇・八三三倍↓7月・〇・八三三倍↓8月・〇・八〇倍と悪化基調が続いている。

（酒井）

■鉱工業生産・在庫指数（季節調整済、千葉県2000年=100、全国2005年=100）



消費関連

県内消費関連業界の7～9月期の売り上げは、ガソリンや食料品価格の高騰、米国金融危機に端を発した国内株価の下落など、消費者心理にマイナスとなる出来事が多発したことなどから、低迷している。業種別に見ても、百貨店や

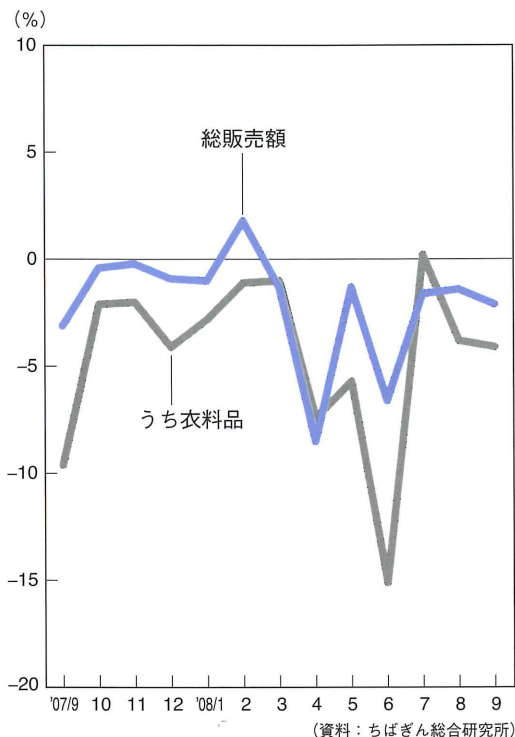
外食産業、ホテル、レジャー施設などほとんどの業種で、業況は悪化しているとの見方を示しており、先行きについても、良くなる要因はまったくないとの声が多く

聞かれた。

これらを映じて、7～9月期の消費関連業種の業況BSIは、サービス(▲十二・九)、小売(▲十二・一)、ホテル・旅館(▲五・六)の三業種すべてで「悪化」超が続いている。

県内百貨店は、貴金属やブランド品などのぜいたく品だけでなく、主力の衣料品売上も前年を下回って推移している。広域商圏をターゲットとする大型ショッピングセンターは、ガソリン高などの影響から来店客数が伸び悩む中、節約志向から顧客単価も低下し苦戦している先が多い。(酒井)

■千葉県百貨店販売額伸び率 (対前年同月比)



食料品

県内食料品メーカーの7～9月期の収益BSIは▲十五・六と2四半期連続で悪化した(1～3月期▲一・五、4～6月期▲六・七)。

なかでも川下に近い食料品メーカーでは、販売先であるスーパーやコンビニへの値上げ交渉が難航していることから、収益面での苦戦が続いている先が多い。

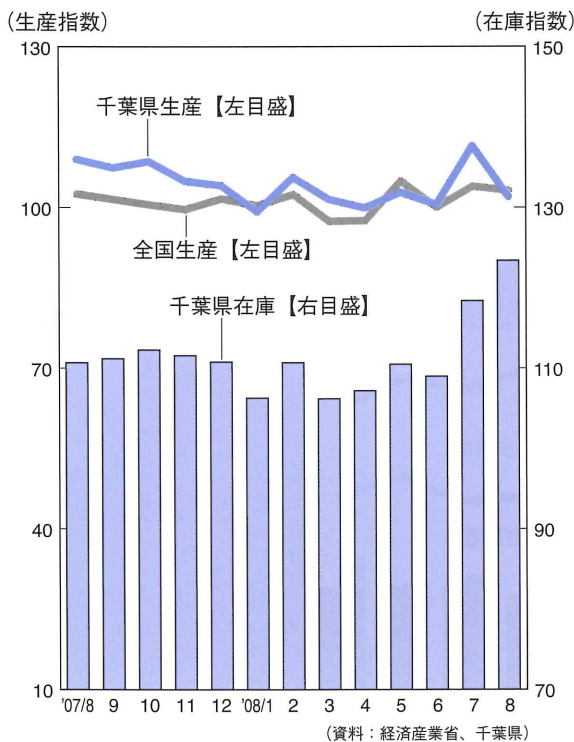
加工食品メーカーでは、鶏肉、小麦粉、食用油などあらゆる原材

料価格の上昇が続いていることから、出荷先に対して出荷金額引き上げを要請している。しかし、交渉が難航し、値上げ時期、幅とも不確定な状況である。こうした中、機械設備や製造工程の見直しなど、経費削減により収益確保に努める動きを一段と強めている。

また、調味料メーカーでは、原材料価格が値上がりする中、販売価格を据え置いたことにより目標を下回る利益水準となった。これまで客離れを避けるために価格転嫁を避けてきたが、今後は収益を確保するために値上げせざるを得ないとしている。(吉川)

■食料品の生産・在庫指数

(季節調整済、千葉県2000年=100、全国2005年=100)



住宅・建設

県内の新設住宅着工戸数（6～8月期）は、前年の改正建築基準法

施行の影響による着工戸数の大幅減少があった反動で、前年同期比+三〇・二%増加したが、改正法施行前の06年同期比では▲三・七%減と、縮小傾向が続いている。

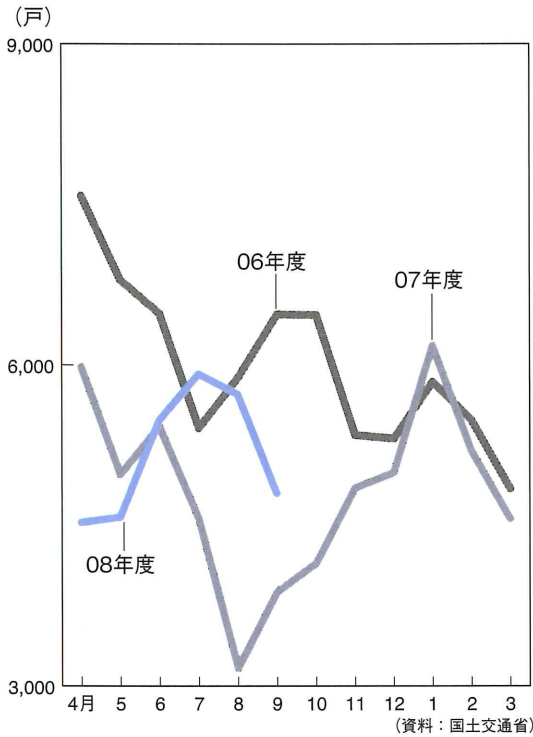
マンションを中心とした民間不動産市場は、サブプライムローン問題を起因とした金融信用収縮に伴う不動産取引の停滞、鋼材価格の高騰などで低迷している。また、景気の不透明感の強まりや、郊外

を中心に一部でマンション分譲価格の下落が見られることなどから消費者の購入マインドが低下しているため、6～8月期のマンション初月契約率は、各月で好不況の境である七〇%を下回った。そのため、大手建設業者などからは、現在の不動産市況の回復には少なくとも二年程度を要するのではないかといった声も聞かれた。

7～9月期の県内公共工事請負額は、国発注の裁判所改築工事や、市川市、船橋市において下水道整備の発注があったことなどから、前年同期比+二・五%と4四半期ぶりに前年を上回った。（福田）

7～9月期の県内公共工事請負額は、国発注の裁判所改築工事や、市川市、船橋市において下水道整備の発注があったことなどから、前年同期比+二・五%と4四半期ぶりに前年を上回った。（福田）

■千葉県新設住宅着工戸数



機械

県内電気機械メーカーの7～9

月期の生産BSIは、〇・〇と前期比▲九・二（10～12月期見込み: ▲十六・七）悪化した。これは、大手メーカー各社が米国消費のさ

らなる冷え込みや五輪特需の不発等もあり、アジアなどの新興国需要でも埋めきれないとみて、例年クリスマス需要を見込む年後半の発注計画を下方修正したため。県内一般・精密機械の7～9月期生産BSIは、▲三・九（前期比▲〇・九）とやや悪化し、収益

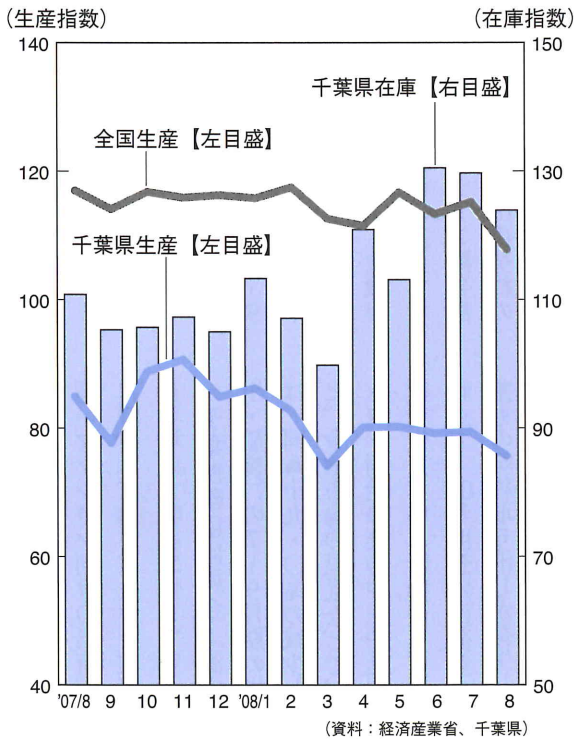
BSIも▲一〇・〇と引き続き「悪化」超となっている。このため、原材料価格が高止まる中、製造コスト上昇分の販売価格への転嫁不足から、収益は厳しいと見る向きが多い。

一方、これまで比較的好調だった輸送用機械の生産BSIは五・〇（前回比▲十七・八）、10～12月期の見通しも▲二〇・〇と急速に悪化している。国内大手メーカー（自動車やトラック、建設機械など）では、中国等アジアの新興国

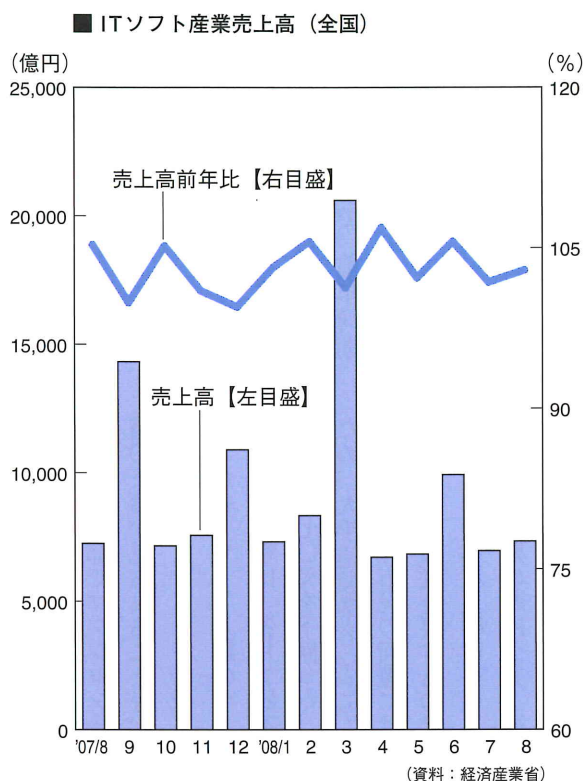
や産油国などの海外需要は増勢を続ける見通したが、北米向け需要の低迷傾向が強まっており、全体として生産が弱含んでいる。（橋本）

■機械の生産・在庫指数

(季節調整済、千葉県2000年=100、全国2005年=100)



ITソフト



8月の情報サービス業(全国)の売上高は、前年同月比十二・九%増加と八か月連続で前年を上回った(七月：同十一・八%増加)。売上高の半数以上を占める受注ソフトウェア開発は、金融業向けなどが引き続き好調で、同十三・二%増加した。

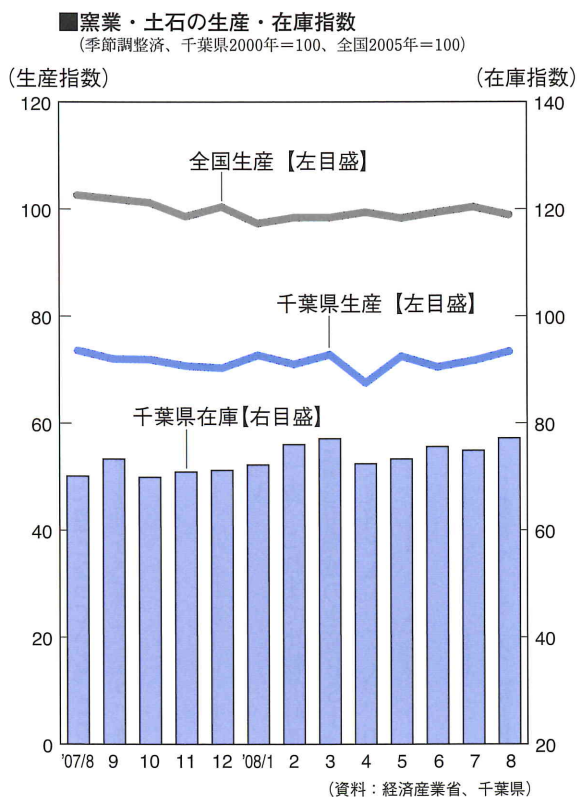
県内のIT関連業者四〇社で構成する協同組合の動向調査(08年9月実施)によると、景気の先行き不透明感の強まりを背景にした

企業のIT設備投資意欲の減退などから、県内IT企業の景況感は悪化傾向がうかがえる。

このように、大手銀行のシステム統合案件の収束や、米国経済失速の影響による輸出産業の減速などにより、県内でも一部の人材派遣業務やシステム開発業務などでは受注環境の悪化が懸念されている。

一方で、システム開発案件は、景気が悪化しても急な中止が困難な業務であることから、少なくとも08年度内は急激な受注環境の悪化には陥らないのではないかと、(福田) 声が聞かれた。

窯業・土石



県内の生コンクリート主要協同組合(北部・西部・中央)の7~9月期の出荷量は、前年同期比▲十六・七%減少と、6四半期連続で前年を下回った。これは、金融市場の混乱や、鋼材価格の高止まりなどを背景に、マンション開発計画の中止や延期による出荷契約の取り消しが散見されていることなどによる。

千葉中央協同組合(千葉・市原・袖ヶ浦)の7~9月期の出荷量は、同▲一〇・八%の減少。利益率は、

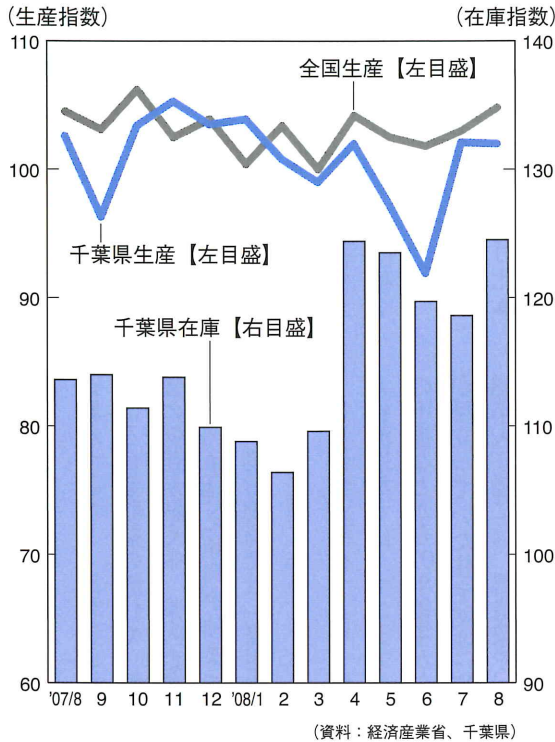
高いマンション向けの出荷が大幅に減少しており、生コン業者の収益環境は大幅に悪化している。

千葉西部協同組合(浦安・市川・船橋)の7~9月期の出荷量は、同▲十九・〇%の減少となった。金融市場の混乱などで、マンション開発事業の中止や延期が多数発生している影響から、9月末時点で、08年度想定出荷量の約二割もの契約取り消しが発生した。

千葉北部協同組合(柏・松戸・野田など)の7~9月期の出荷量は、同▲二〇・五%の減少。TX沿線のマンション向け出荷が減少したため、前年を下回った。(福田)

■化学工業の生産・在庫指数

(季節調整済、千葉県2000年=100、全国2005年=100)



鉄鋼
7～9月期の県内高炉メーカー二社の粗鋼生産量は、自動車、造船など製造業向けを中心に、内外で好調に推移する鋼材需要を反映し、7～9月期としては過去最高を更新した。

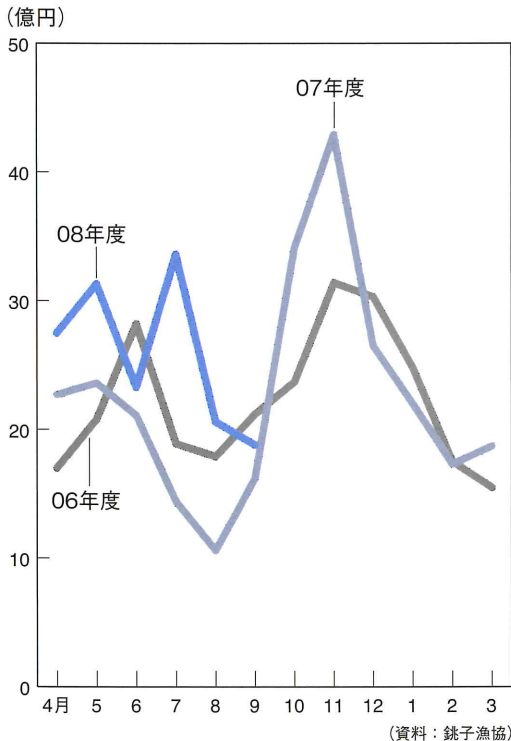
県内鉄鋼・非鉄金属メーカー(中小企業が中心)では、企業収益の悪化や鋼材価格の高止まりなどにより、建築鋼材の荷動きが低迷している。特に7月の高炉メーカー

鉄鋼
石油・化学

1の追加値上げ以降は、仮需の反動減も重なり、荷動きは一段と落ち込んでいる。(福田)

石油・化学
7～9月期の国産ナフサ価格は、原油価格の高騰が続いている影響から八万五八〇〇円/kgと、4四半期連続で過去最高を更新した。川下の加工メーカーでは、原料樹脂価格の上昇幅が拡大していることから、販売価格への転嫁を徹底している。一方、大手石油化学各社は、今夏以降、中国の米国向け輸出減に伴い、エチレンの減産を実施している。(古川)

■銚子漁港の水揚げ額



農業
7～8月期の千葉県産主要野菜一〇品目の東京中央卸売市場への出荷は、数量が八二四七t(前年同期比+二二・八%)、平均単価が一七〇円/kg(同▲〇・六%)となり、出荷金額は十三・二億円と同+十六・七%増加した。

数量が前年を大幅に上回ったのは、6月の低温・多雨・日照不足により成育の遅れていた農作物の収穫時期が、7月にずれ込んだことによるもの。なかでも夏野菜の主要果菜類であるトマトは、出荷

農業・漁業

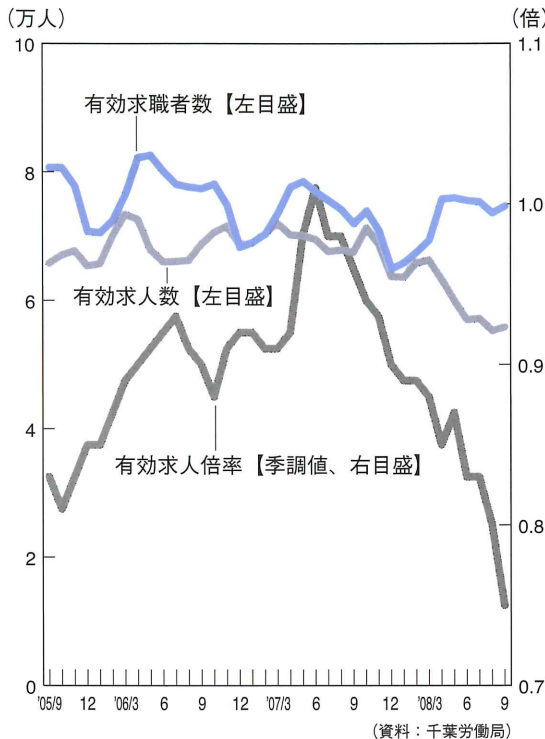
量が一四七二t(同+一〇・四%)と大幅に増加した。(古川)

漁業
銚子漁港の7～9月期の水揚げ状況を見ると、数量が五万九八八二t(前年同期比二・一倍)と2四半期連続、金額が七三・〇億円(同+七六・九%)と4四半期連続で前年同期比増加した。数量、金額ともに前年を大幅に上回ったのは、主力のサバの水揚げが好調だったことによるもの。

勝浦漁港の7～9月期の水揚げ状況は、数量(三一七八t・同+二五・八%)、金額(一〇・五億円・同+三三・四%)とも前年を上回った。(古川)

雇用

■千葉県内労働需給状況



8月の千葉県の有効求人倍率(季調値)は、〇・八〇倍と前月比〇・〇三ポイント悪化し、07年6月に一倍を超えた後、悪化傾向が続いている(6月：〇・八三倍↓7月：〇・八三倍)。

8月の有効求人数(同)を見ると、五万八五九七人と前月比▲二・二%減少し、三か月連続で前月を下回った(6月：前月比▲二・一%減↓7月：同▲〇・五%減)。

雇用BSI(全産業)は、一・五

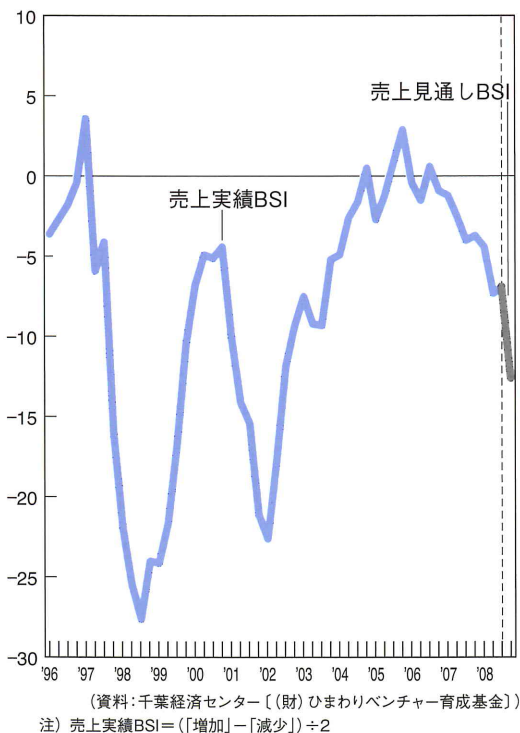
(前回比▲二・四)と「不足」超幅が縮小するなど、原材料価格高騰による企業収益の悪化や、個人消費の低迷が続く中、県内企業では雇用の手控え傾向が強まっており、千葉労働局では「雇用失業情勢は下降局面にある」としている。

雇用情勢が悪化する中、県内の人材派遣業では、マンション販売の不振などから07年後半から減少が目立っていた住宅関連に加え、08年入り後には、製造業や、自動車販売などサービス業においても、一般事務職の派遣要請が減少しているといった声も聞かれた。

(福田)

企業経営 動向調査(BSI)

■企業経営動向調査 売上実績・見通しBSIの推移



7~9月期の県内企業の業況判断BSI(全産業)は▲十一・五と、前回(4~6月期)比▲四・二悪化し、7四半期連続で「悪化」超となった。このうち製造業は▲十一・八(前回比▲七・五悪化)、非製造業は▲十一・一(前回比▲〇・四悪化)とともに悪化した。非製造業の大企業では改善したが、製造業は大企業、中小企業とも悪化した。なお、業況判断BSI(全産業)の▲十一・五は、02年7~9月期の統計開始以来最低の水準。

売上BSI(全産業)は▲六・九と前回比+〇・四改善したが、8四半期連続で「減少」超となった。収益BSI(全産業)は、▲十二・〇と前回比横ばいとなったが、水準は11四半期連続で「悪化」超となった。非製造業は▲十一・九と前回比+一・六改善したが、製造業は▲十二・一と前回比▲一・四悪化した。

08年度設備投資計画額(全産業)は、07年度実績比▲十七・七%の減少となった。期初計画比でも▲三・四%の下方修正となった。

雇用BSI(全産業)は一・五(前回比▲二・四)と「不足」超幅が縮小した。

(福田)